



羽合小学校 学校通信

平成26年5月28日 NO, 31

叱られかたも大事

中国の思想家孔子の言行を記した「論語」という書物の中に下のような記述があります。

過(あやま)ちて改(あらた)めざる是(これ)を過(あやま)ちという

現代訳すると、

過ちはだれでも犯すが、本当の過ちは、過ちと知っていながら悔い改めないことであるという意味になります。

現在のこどもたちの言行を見ると、時として悔い改めない姿に出会うことがあります。過ちがあつて叱られたときの姿です。

叱られたとき、真に悔い改め、二度と繰り返さないように心がければ、意識しなくても過ちを起こさないようになり、それを成長というのだと思います。

こどもたちは叱られるものです。これから人として成長していくのですから当たり前です。良くないことをして叱られるのですから、叱られて当たり前、それを自分の財産にして成長していきます。逆に良いことをすれば褒められますし、これも財産になっていきます。

では、悔い改めていない姿とはどんな姿でしょうか。それは、ふてくされる・茶化す・開き直る・人のせいにする・うそをつくなどというのがその代表でしょうか。

こどもたちが、先生やお家の人に叱られているのを見ていて、その改めざる姿に出会うと悲しくなります。「ならぬことはならぬのです」大河ドラマで有名になった言葉ですが、まさにその通り、ダメはダメなんですね。ダメだから指摘されているわけで、叱られるのは当たり前です。問題はそれを指摘されたときどうすべきか、そこが大事なのだと思います。「叱られ方」が大事です。

では、叱られ方をどのように指導したらよいのでしょうか。

- 叱られている理由を明確に伝えます。
- 改めざる姿は許しません。
- 改めた後の行動は確認します。

叱りっぱなしで「叱られている時を切り抜ければ良い」という経験をさせてはいけません。叱った後の行動が本当に正され、繰り返されることはないのか、見守っていくことが大切です。

わたしたちも間違いや不利益から目をそらすことなく、自己の考えに固執することなくこどもたちと同じ道を歩んでいかなければなりません。大人になればなるほど難しい事なのかもしれませんが、師弟同行、こどもたちが道を誤ることのないよう導いていきたいものです。

【お知らせ】

先日の運動会の時、卒業生が「サマープラスコンサート」のPRに来てくれました。ご都合がつかれましたら、ぜひ応援をお願いします。(中部地区吹奏楽団のバンドフェスティバル)

日時：平成26年6月15日(日) 11時開演 場所：未来中心大ホール 入場料：500円

羽合小学校 寺谷英則